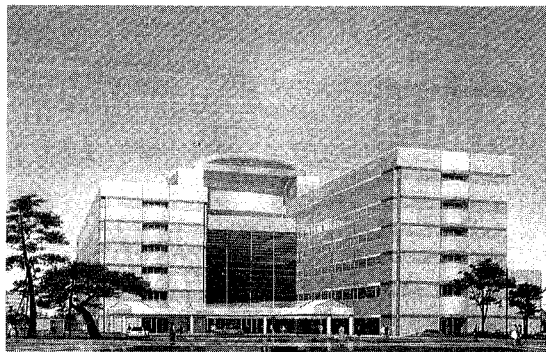


# 明治から現在までの 新潟市の移り変わり

西暦	年号	おもなできごと
1868	明治元	安政仮条約により新潟港開港
1869	2	新潟運上所開設(後に新潟税関と改称)
1880	13	新潟大火 6,175戸焼失
1886	19	初代万代橋完成
1888	21	新潟川開きが始まる(当時は橋祭りと呼んだ)
1889	22	市制が施行され、関屋村と合併して区役所を市役所と改称(人口43,911人)
1899	32	初めて鉄道が開通(北越鉄道、沼垂～直江津間)
1904	37	北越鉄道、新潟停車場まで延長。新潟～東京間全通
1909	42	2代目万代橋完成
1910	43	上水道が完成し通水開始
1911	44	41年焼失の新潟市役所新築落成
1913	大正 2	北陸線と越後線が全線開通
1914	3	沼垂町を合併(人口91,604人)
1919	8	馬越村と彌又村を合併(人口99,144人)
1923	12	新潟市立白山総合運動場開く
1925	14	新潟灯台を西防波堤先端に建設
1929	昭和 4	現在の万代橋(3代目)が完成
1931	6	昭和橋完成
1933	8	上越線開通(東京まで7時間10分)
1938	13	市役所焼失。商工奨励館を仮庁舎
1943	18	市営公会堂新築落成(新津恒吉氏寄付)
1943	18	大形村、石山村、鳥屋野村を合併(人口191,663人)
1947	22	民選初代村田三郎市長就任
1951	26	名誉市民に会津八一、沢田敬義、荻野久作氏を推す
1952	27	市内電話が自動式になる
1953	28	下水道工事着工
1954	29	松ヶ崎浜村、濁川村、南浜村、坂井輪村を合併(人口262,002人)
1955	30	新潟大火で926戸焼失。市役所をはじめ新潟日報社、大和・小林両アパートなど焼失。市役所は公会堂を仮庁舎とする
1956	31	白新線が全線開通
1957	32	岡川村、菅野木村、大江山村を合併(人口295,225人)
1958	33	現在の市庁舎が完成
1959	34	北朝鮮帰還保護課事務所設置、帰還第1次975人新潟港を出境
1960	35	内野町を合併(人口319,815人)
1961	36	中野小屋村、赤塚村を合併(人口326,632人)
1962	37	八千代橋完成
1964	39	西堀を埋め立て幹線道路とする。第19回国民体育大会開催
1965	40	マグニチュード7.5の新潟地震が発生
1965	40	米国ガルバトン、ソ連ハバロフスク両市と姉妹都市宣言
1967	42	新潟港が特定重要港湾に指定される
1968	43	開港100年震災復興記念新潟大博覧会開催
1968	43	スポーツ音楽都市を宣言
1969	44	新潟東港開港
1972	47	関屋分水路完成
1976	51	地下商店街西堀ローサがオープン
1977	52	音楽文化会館完成
1979	54	生活環境基準決まる(人口440,657人)
1980	55	中国ハルビン市と友好都市宣言
1981	56	新潟駅東側連絡通路開通
1981	56	青少年三川自然の森オープン
1981	56	新潟国際友好会館オープン
1982	57	上越新幹線開業
1982	57	本川大橋完成
1983	58	新幹線開通記念'83新潟博覧会開催
1983	58	新潟流通センター完成
1985	60	テレトピアモデル都市に指定
1985	60	駅南再開発ビル「ブラーカ」オープン
1985	60	千歳大橋完成
1985	60	市立美術館オープン
1987	62	関越自動車道全線開通
1987	62	新潟産業振興センターオープン
1988	63	インテリジェンシティ、郵トピア、国際コンベンションシティにそれぞれ指定
1988	63	第9回アジア卓球選手権大会開催
1988	63	北陸自動車道が全線開通
1989	平成元	市制100周年を迎える



新庁舎の完成予想図(東中通方面から庁舎正面を望む)

## 新庁舎 8月に完成

### 9月21日に竣工式

新庁舎は地下二階、地上七階建てで、延べ床面積は約二万三千平方メートル。中央部分は十分な採光を考え、四階までの総ガラス張りの吹き抜けとし、外壁を淡いベージュ系のタイルで覆う。

①庁舎の市民開放：九月八日～十日  
②引越：九月十四日～十七日  
③竣工式：九月二十一日に新潟産業振興センターで開催

庁舎の完成により、市民課や税務三課、福祉課などの窓口部門は、一、二階に配置し、また、エスカレーターを設置するなど来庁者にとって利用しやすいようになっています。

設備面では、①温水パイプを埋め込み消算するロードヒーティングの熱源を、蓄えられた余熱を使い省エネ化する  
②将来のO/A化を見込み高度情報化に備えたインテリジェント対応にする――の二点が主な特徴となっています。

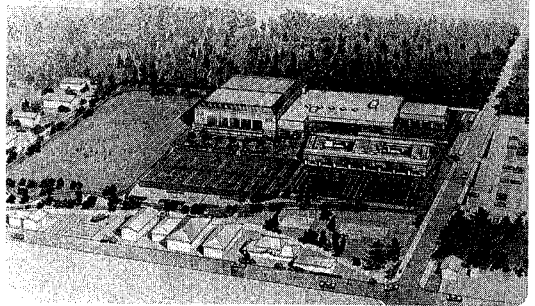
# 市制100周年記念施設

# 新しいシンボルが誕生

ル張りするなど「明るく親しまれる建物」を基調としています。

市民課や税務三課、福祉課などの窓口部門は、一、二階に配置し、また、エスカレーターを設置するなど来庁者にとって利用しやすいようになっています。

西総合スポーツセンターの完成予想図



## 西総合スポーツセンター

### 7月25日オープン

体育館・多目的グラウンド  
テニスコート・トリムコース  
ゲートボール場・・・

西総合スポーツセンターは、二万九千平方メートルの敷地に総合体育館、屋内ゲートボール場、多目的グラウンド、トリムコース、テニスコートなどを配した総合体育施設です。

体育館は、延べ床面積約六千平方メートル、一階に大、中、小三つの体育室とトレーニングルーム、エンターテインメント二階にギャラリーと一周約百八十メートルのランニングコース、集客研修室、喫茶室が設けられています。

体育館は全体にガラス張りの壁面を多く取り入れ、明るさを強調。また、屋外の施設と組み合わせた総合体育施設として、ロビーも広く、だれもがくつろげるよう配慮されています。

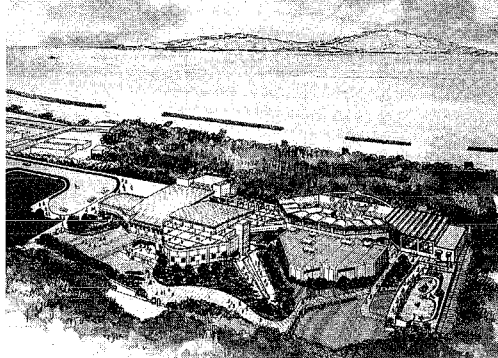


建設が進む体育館棟

## 新水族館

オープンは  
来年7月の予定

日本海大水槽  
イルカショー  
ラッコ館



新水族館の完成予想図

新水族館は延べ床面積が七千二百平方メートルで、現在の約五倍。日本海側では最大規模で「水の都・新潟」のシンボルとなります。

新水族館の特徴は①自然環境を生かした新しい出会いの場②娯楽性を最大限に取り入れた文化的レクリエーション施設③世界的水族や海獣ショーなどを紹介する日本海の拠点都市にふさわしい水族館④博物館機能を備えた学習の場⑤映像などでの水棲(せいすい)動物の生態の展示と海産情報の提供を行うことです。

本館は地上二階、地下一階建てで、日本海大水槽や信濃川の上流から下流までの魚を見せる信濃川水槽などのほか、人気者のラッコ館もあります。

屋外にはイルカショー、ペンギンマリンスカイなどを飼育するマリンスカイを飼育するイルカなどを設置。このほかに海の見えるレストランや屋上広場などが設けられます。

新水族館の外壁は自然とマッチする色合いのタイル張りです。屋根は液をモチーフにした金属大屋根を使用。ほかには家族連れで憩える屋外のお弁当広場を設けるなど、西海岸公園にふさわしい建物となっています。